

10月の実験

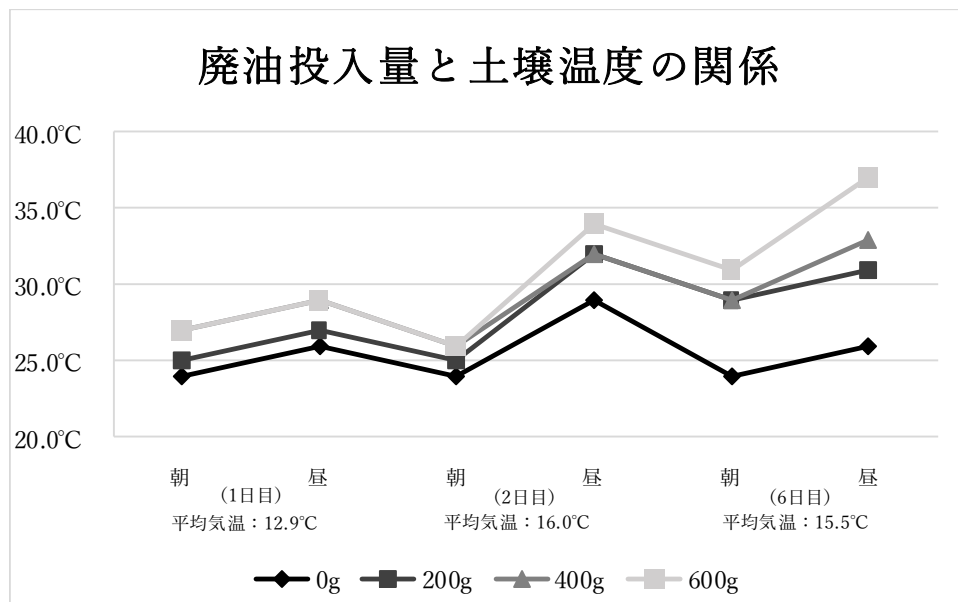
生ごみ 1600g を 400g ずつに分けて 4 箇所の実験をおこなった。実験内容は、廃油を 0g～600g の間で投入し、分解スピードと土壌温度の関係を見ることにした。水分はすべて 300ml 投入し様子を見た。

【投入したもの】

お茶葉、ご飯、麺類（4 箇所の生ごみが均等になるようによくかき混ぜてから投入）

【実験結果】

すべて変わらず 6 日間で分解した。しかし、土壌温度には最終的に 10℃以上の差が出た。



【考察】

土壌温度に差が出たことに対し、分解スピードが変わらなかった訳としてかき混ぜる頻度が少なかったことと、生ごみの量が少なかったため差が出にくかったと思われる。しかし、油を投入することで実質的に細菌が分解しないといけない量が増えるため、その分を加味すると分解スピードは速まっていると考えることも出来る。また、生ごみが分解された際の土壌温度がとても高いため、次の生ごみ投入の際の分解能力の向上も期待できる。今後も引き続き実験を続けていく。